

主な調査結果



人々はAIにワクワクすると同時に不安も感じている

53%がAIを活用した製品やサービスにワクワクしていると答えたのに対し、50%がAIに不安を感じると答えています。アジアでは興奮が最も高まっている一方、アングロスフィアとヨーロッパでは懐疑的な見方が最も強い結果となっています。



AIに関する知識は若者の間で最も高い

32か国で67%がAIについてよく理解していると答えています。この割合は、Z世代では72%、ミレニアル世代では71%と高い一方、ベビーブーム世代では58%のみがAIをよく理解していると回答しています。



しかし、AIを活用した製品やサービスを知っている人は少ない

52%が、どのような製品やサービスがAIを使用しているかを知っていると回答しています。調査対象となった32か国のうち13か国では、AIを使用している製品やサービスについて知っている人の割合が、知らない人の割合よりも低いことがわかりました。



人間はAIよりも差別をされると考えられている

調査対象となった32か国のうち29か国では、人間はAIよりも他者を差別すると思う人の方が多い結果となりました。アイルランドは、AIよりも人間のほうが差別をしないと答える人が多い唯一の国です。



AIは偽情報を悪化させると予想される

平均して37%がAIによってインターネット上の偽情報が悪化すると考えており、30%は改善されると考えています。スウェーデン、オーストラリア、ニュージーランドの3か国では、大多数が偽情報が悪化すると考えています。



AIが仕事をより良くしてくれると考えている

37%がAIによって自分の仕事が良くなると考えている一方で、16%は仕事が悪くなると考えています。しかし、36%の人が今後数年のうちにAIが自分の仕事に取って代わると予想しており、特に高学歴の人が懸念しています。